



第12回「湖医会賞」受賞記念講演・「湖医会」総会

10月26日(土) 13:00～ 滋賀医科大学看護学科棟第4講義室

CONTENTS

「湖医会賞」を受賞して.....	井上修平	2
キャンパス情報	永田 啓・相見良成	4
支部会 鹿児島支部	迫田 悟・渡辺一良	6
大阪支部	近藤浩之	8
同期会 卒後10年会（看6期生）.....	泊 祐子・中川千尋・松永宏美	9
看護学科交流懇談会	上岡有智子・尾崎 泉・井上和泉	15
私の仕事場	大橋俊子・岡崎和子・一色喜保	17
研修医だより	倉橋幸也	20
学友追懐	京川 進	22
事務局から	総会の案内 ほか	24

「湖医会賞」を受賞して

滋賀病院から東近江総合医療センターへの道のり ～地域医療再生計画の現場で～



独立行政法人国立病院機構 東近江総合医療センター 院長(呼吸器外科) 井上 修平(医3期生)

この度は、第12回湖医会賞を頂きまして、誠にありがとうございます。湖医会賞は滋賀医科大学卒業生として栄えある

賞であり、大変光栄に存じます。また、御推薦いただいた永田 啓先生ならびに選考委員の諸先生方にも心より御礼申し上げます。

私は昭和32年に福岡県で生まれ、公務員(海猿)であった父の転勤によって鹿児島県で幼少期を過ごし、小学2年生から高校卒業までは宮崎県で暮らしました。その後、鹿児島大学工学部電子工学科に合格するも1日も通学せず、1浪して滋賀医科大学の3期生として昭和52年に入学しましたが、バレーボール等スポーツをしながら雀荘にも入り浸りという学生生活でした。それでも無事、大学を卒業でき、昭和58年に滋賀医科大学第2外科に入局しました。当時の第2外科は心臓血管外科、呼吸器・乳腺外科、消化器外科を全て担当しており、同期の入局者は10名もいました。その中で研修医1年目に消化器外科と心臓血管外科をローテートし2年目からの呼吸器外科を現在まで続けています。入局3年目に医員となりましたが、昭和60年8月から国立療養所南京都病院へ赴任

しました。そこは呼吸器外科ができたばかりで手術を含めた症例数も少なく、総合医的な仕事内容でしたが丁度10年間の勤務となりました。その後平成7年6月に滋賀医科大学第2外科助手として戻りました。その当時も呼吸器内科がなかったため、大学や関連病院の呼吸器疾患の診断から治療まで全てを担当し非常に忙しい毎日でした。その間に解剖学教室に週1回でしたがお世話になり、学位を取得するとともに、学会活動も精一杯行い全ての専門医・指導医の取得をしました。

そんな折、平成12年12月に国立病院の統廃合で八日市病院が滋賀病院として生まれ変わり、初代の呼吸器外科医長として赴任することとなりました。当初一人医長も症例数の増加と共に後輩が赴任し、今では滋賀医科大学の関連病院では最も多い4人体制となっています。病院内の立場も、平成17年から外科医長、平成18年からは統括診療部長に昇任となりました。その間、平成16年度に導入された新臨床研修システムによって、当時京都府立医科大学関連病院であった当院からは徐々に医師引き上げが始まりました。平成16年度は35人(滋賀医大出身は9人)の常勤医師数体制が、平成20年3月には内科医師が全員退職し、平成22年度には12人(滋賀医大出



開設記念式典

四者協定



病院外観(南東面)



身10人)となりました。この人事は京都府立医大出身の院長・副院長人事にも及び、平成20年7月に国公立病院初の滋賀医科大学卒業生の院長誕生となりました。

しかし、医師不足下での病院経営は厳しく、医療提供体制の脆弱化と医療機能の低下した状況が続き、ひいては病棟の閉鎖、二次救急輪番から撤退という危機の中、なんとか外科・呼吸器外科が中心となり病院機能の維持・確保に懸命になっておりました。また、東近江市内の2市立病院も当院と同じく医師不足が進み、平成18年には東近江市全体を考える病院あり方検討会が開催され、以降は種々会議・検討会が継続して開催されて、滋賀医科大学を巻きこんでの議論が進められました。これらの検討会等には全て出席し、意見を出し、当院の再起について日夜悩まされているそんな折り、平成22年1月に滋賀県地域医療再生計画が策定され、当院を220床から320床に増床した中核病院である東近江総合医療センターと名称を変え開設されることとなりました。この計画では基金により滋賀医科大学に地域医療等に関する寄附講座を設置し、当院に医師派遣を行うこととなり、実際平

成23年度からの医師派遣が開始され、患者数の増加とともに休棟中の2病棟の再開棟、新病院の建築も順調に進み、この春、計画通りに東近江総合医療センター開設となりました。現在の常勤医師数は37名となり、殆どが滋賀医科大学医局からの派遣となっています。

今回の受賞理由は臨床の業績ではなく、地域医療が破綻した時代に滋賀医科大学卒業生で初の国公立病院の院長になり、滋賀県、滋賀医科大学、東近江市、国立病院機構の4者の協定を締結し、寄附講座の設立、東近江市国公立3病院の集約、中核病院としての東近江総合医療センター設立に貢献したというものです。しかし、これらの成功は馬場学長ならびに柏木病院長を先頭に多くの関係者方々のご尽力によるものであり、まさに「天の時・地の利・人の和」があったからこそのことだと、改めて皆様方に感謝して受賞のよろこびの声といたします。また、今後とも病院発展に尽くしてまいりたいと存じますので、皆様方のなお一層のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。



医局会

キャンパス情報

変わりゆくキャンパス 2013(その1)



滋賀医科大学附属病院医療情報部・教授

永田 啓 (医2期生)

病院の再開発が終わり、あちこちの工事も一段落したと思っていたのですが、今年から来年にかけて、地震対策などを含めていろいろな施設がつくことになり、大学はまたしても工事に明け暮れています。

2013年6月最初の時点では、図書館と病院の間に、総合研究棟(疫学研究拠点)の建物の工事がかなり進んでいます。

D病棟の1階は今までピロティーとして吹きさらしの状態でしたが、ここを間仕切っていくつかの部屋が出来る予定です。

この他に予定されているのは、病院の患者さん用の駐車場の所に、ヘリポートができるほか、分子神経科学研究センターの延長でグランド方向にスキルスラボ棟が新設されます。



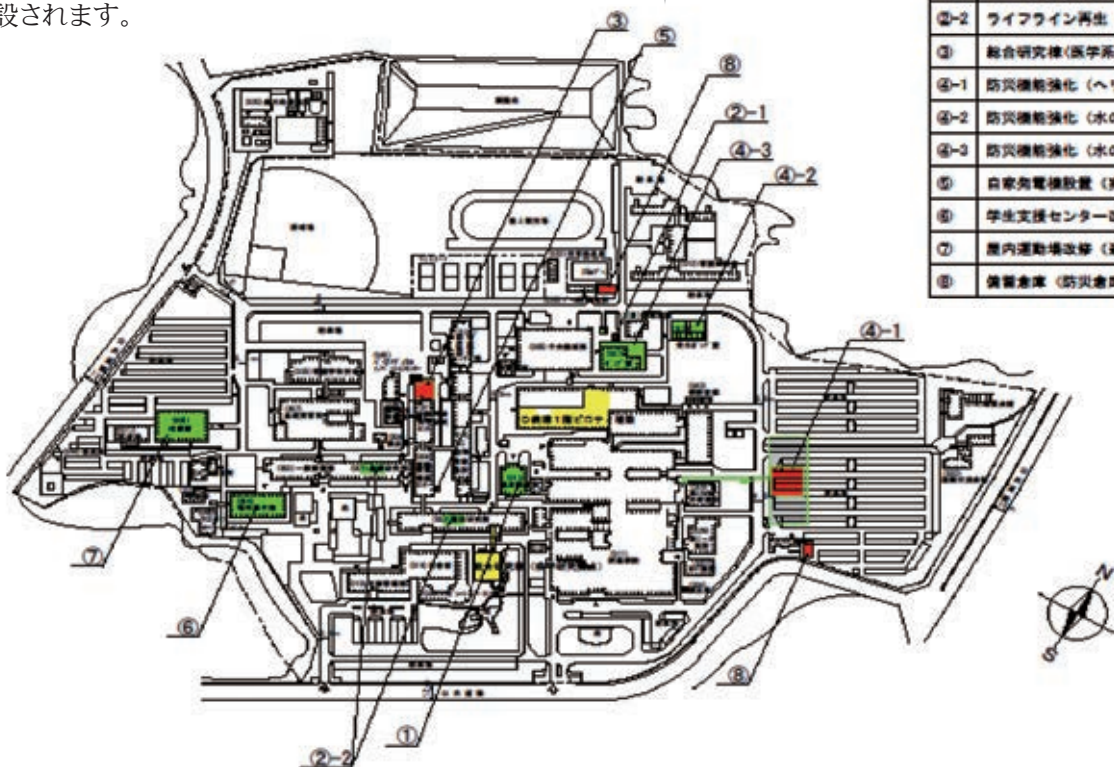
工事中の総合研究棟(疫学研究拠点)(右は図書館、臨床研究棟から)

さらに、耐震工事として、学食のある福利棟と体育館の工事が予定されています。そして、みんなが講義や試験で苦しんだ?臨床講義棟も、改修されることになりました。臨床講義室3の階段教室がもう少しなだらかになり、収容人数も増える予定です。

実際の建物や設備が出来上がったら、順番に写真などで紹介したいと思います。

工事一覧表

記号	事業名(概要)
①	講義棟改修(内部機能改修)
②-1	ライフライン再生(煙突更新)
②-2	ライフライン再生(受電設備更新)
③	総合研究棟(医学系)(スキルスラボ棟新築)
④-1	防災機能強化(ヘリポート)
④-2	防災機能強化(水の確保:上水)
④-3	防災機能強化(水の確保:中水)
⑤	自家発電機設置(実験実習支援センター附属外型)
⑥	学生支援センター改修(福利厚生棟改修)
⑦	屋内運動場改修(避難所機能強化)
⑧	保管倉庫(防災倉庫2カ所新築)



『SUMSメディカルミュージアム』を作りました!

滋賀医科大学解剖学講座・准教授

相見 良成 (医5期生)



滋賀医大では「開放型基礎医学教育センター」事業の一環として『SUMSメディカルミュージアム』を開設しました。大学が

所有する様々な教材を、学内の教育のみならず広く社会に公開し、小学校～高等学校、コメディカル教育機関等の理科教育・医療教育に役立てることを目的としたものです。

■開放型基礎医学教育センターって何?

みなさんが学生時代に用いた模型や標本など(懐かしいですね)滋賀医大には豊富な基礎医学教育の教材があります。しかしながら、これまでは主に大学内の学生教育における利用に限られ、せっかくの資源が『もったいない』と思われる状況でした。当センターはこれら教材の大学内でのさらなる有効利用を図るだけでなく、広く社会に公開し、大学外における教育に役立てることを目指して設立されました。

■SUMSメディカルミュージアムについて

当初のセンターの活動は、インターネットを利用して「教材の内容や所在を提示して貸し出す」「プレパラートを電子化し世界中のどこからでもPCを用いて観察可能にする」といった、いわゆる「バーチャル」なものでした。しかしながらこの度、基礎講義・実習棟の改築を機に実際の標本等を収納し展示するスペースを得ることができ『SUMSメディカルミュージアム』の開設となりました。ミュージアムは顕微鏡実習室に隣接して増築(約130平米)され、学外への持ち出しの難しいヒト標本等を展示しており、展示物によっては「見る」だけではなく『本物に触れながら』学ぶことができます。

主な展示教材…●シリコン包埋ヒト病理標本:シリコンで処理した臓器を手にとって観察できます。●ホルマリン浸漬ヒト病理標本:標本ビン中の臓器を観察できます。●分離骨格標本:個々に分離したヒトの全身の骨標本で、手にとって観察できます。●3D画像教材:滋賀医大で作製した人体の3D教材を供覧しています。●人体模型:各種臓器の分解模型や組織の拡大モデルなどを取り揃えています。●顕微鏡プレパラート:約500種類のプレパラートを双眼顕微鏡で自由に観察できます。



ミュージアム外観



ミュージアム室内概観

■オーダーメイドの見学を

このようにいろいろな教材を集め公開しているミュージアムですが、単に「どうぞ自由にご覧下さい」ではなかなか学習の効果は上がらないのではないのでしょうか。そこでミュージアムではiPadとQRコードを用いた教材の解説システムや見学クイズなどの工夫を凝らし、より「能動的」な見学を促すよう試みています。またこれらの試みが一方的にならないように、あらかじめ見学引率者などと打ち合わせて要望を聞くことで、いわばオーダーメイドの見学プログラムを作り出し、より有意義な見学となることを目指しています。センター名称の「開放型」という言葉の中には、見学や貸出などによる「公開」だけではなく、利用者の『ニーズ』をくみ上げ、利用者とともに『双方向』で活用法を見いだしていくという意味も込められています。

■ふるってご利用ください

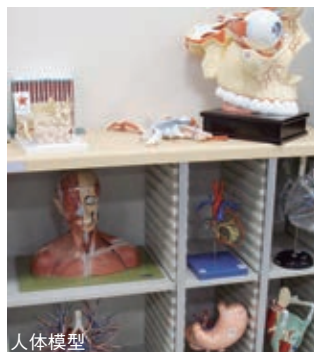
現段階では見学者の対象を『看護学校など医療人育成を行う教育機関、小中高など理科教育を行う教育機関など』としており、個人での見学は受け付けておりませんが、教育機関などの「など」の部分には地域の子供会や職場の学習会のような様々なグループを想定しています。一度ご来学いただいてミュージアムを視察していただき、今後のグループでの見学をご計画いただけると幸いです。

■ご意見・お問い合わせは…

滋賀医大・解剖学講座 相見 077-548-2141

またはホームページ <http://www.sums-mm.com>

のお問い合わせ画面から



人体模型



分離頭蓋骨標本



ホルマリン標本



古文書

■支部会

第3回 「湖医会」鹿児島支部会開催!

愛甲医院 迫田 悟(医1期生)

鹿児島在住の滋賀医科大学卒業生が一同に集まり、糖尿病内分泌・腎臓・神経内科(旧第3内科)の西尾善彦先生が、鹿児島大学大学院糖尿病・内分泌内科学教授にご就任されたお祝いをしてからもうすぐ2年になります。

3回目の鹿児島支部会を5月11日18時から鹿児島市の城山観光ホテルにて開催しました。台風襲来心配が少ない5月の開催を決めて半年以上前から会場を予約しようとしたのですが、学会や結婚式シーズンと重なったようで、会場の確保に苦労しました。

今回は、滋賀医科大学から馬場忠雄学長をお招きして大学の現況をご報告いただきました。また、「湖医会」の渡辺一良会長もご出席してくださいました。

支部会では、隼人温泉病院副院長の木建直哉先生に「アジルサルタン使用経験例の報告」の演題で、アジルバの降圧効果についてお話してくださいました。複数の降圧剤を服用している患者さんにアジルバを処方したところ、アジルバのみの単剤投与にすることができたというお話が印象に残りました。

また、馬場忠雄学長には「本学の現状と課題」の演題で、熱のこもったご講演をしていただきました。国からの予算配分が年々減らされていくなかで、がんばっている母校の現状を詳しく知ることができました。附属病院の入院の病床稼働率が90%を越え、平均在院日数が約15日とのことで、後輩の先生方の精進努力に頭が下がる思いでした。

講演終了後、隣に用意された懇親会場に移動して、医5期生の西尾善彦教授による乾杯の音頭で飲食を共にしながら歓談を始めました。楽しい時間というのはあっという間に過ぎてしまいます。話に夢中で、おいし

そうな食事の方はつい二の次になってしまいました。医7期生の河野史代先生(旧姓米永先生)の一本締めで懇親会を終りました。



馬場忠雄学長をホテルの部屋にお送りした後、出席者全員でホテルのバーラウンジに移動し、リッチな気分になりながらの二次会を始めました。ボトルで注文した焼酎があっという間にカラになる勢いで、しばしの間、おしゃべりが続きました。まだまだしゃべり足りないという思いを胸の中に押しとどめて、23時頃に二次会をお開きにしました。

現在、鹿児島県内には13名の滋賀医科大学卒業生が活躍中です。当日は9名の先生方が出席されました。

講演会場で出席者全員で撮影した写真、前列左から渡辺一良先生(医2期生)、西尾善彦教授(医5期生)、馬場忠雄学長、田畑富士男先生(医1期生)、後列左から吉井理一郎先生(医29期生)、木建直哉先生(医8期生)、中野静雄先生(医3期生)、迫田悟(医1期生)、小森園康二先生(医7期生)、河野史代先生(医7期生)、牧優子先生(医17期生)です。

今回の鹿児島支部会も、武田薬品工業株式会社との共同開催にいたしました。各先生方への連絡、会場運営の援助などを引き受けてくださって大変感謝しています。

次回の開催は、どんな形式にしようかと思案しながら、ホテルの玄関からタクシーに乗り、最終の鹿児島中央駅発の新幹線で川内へ帰宅しました。

鹿児島支部



「湖医会」会長
渡辺 一良 (医2期生)

さる5月11日土曜、桜島と対峙し鹿児島湾を見下ろす城山観光ホテルにおいて、第3回「湖医会」鹿児島支部会が開催されました。

大学から馬場学長のご参加を得て総勢11名、鹿児島県在住の滋賀医大出身者が一堂に会しました。鹿児島支部会は3年前、本学卒業生である西尾善彦先生(5期生)が鹿児島大学の内科学教授に就任されたのを契機に、第1期生の迫田先生と田畑先生の呼びかけにより始まりました。以来、鹿児島支部会は毎年開催していただいております。このことは地域ごとに支部会組織を立ち上げてほしいと願っていた「湖医会」として大変ありがたく、心から感謝しております。

今回は学術講演を含む形式で開催され、ついで行われた馬場学長の講演は法人化以後の滋賀医大の活躍ぶりと課題を鹿児島の皆さんに是非ともお伝えしたい、という本当に熱のこもったもので予定時間を超過して熱く語られました。これを聴いた鹿児島支部会の皆さんからは、母校の活躍ぶりに感動するとともに、単科大学の小回りのきく運営と学長の強力なリーダーシップ、それに伴って全国の国立大学中でもトップクラスの実績の上がっていること等に、感嘆の声が聞かれました。

その後の懇談会では酔いとともに学生時代の顔や様々な出来事がアルバムのページをめくるように思



い出され、話に花が咲きました。3期で鹿大外科出身の中野静雄先生はもちろんですが、3年前に鹿大教授となった西尾善彦先生(5期)もすでに鹿児島に溶け込んでいて、これからの活躍が期待されます。そして今回、8期生の木建直哉先生が学術講演をしてくれました。

中堅では、湖医会賞受賞者の河野史代先生(7期)、ラグビー部OBで肝臓内科医の小森園康二先生(7期)らが出席してくれました。また若いところでは17期の牧優子さん、また29期の吉井理一郎君は鹿大整形外科で活躍している様子で、みな将来が囑望されます。

鹿児島の人間は鹿児島に帰ってくる習性(?)が強いらしく、それは鹿児島県人が故郷に強い愛着を抱いているからだと言われ、なるほどその通りだと感じた次第です。若い人が卒業して地元に戻ろうとすると頼るのはやはり、同窓の先輩です。このような点からも地方支部会の立ち上げは意味があるなあと実感しました。

幻の焼酎、森伊蔵を味わい、そのきめの細かさ、隙のないまろやかさに感動しつつ夜は更けていきました。次回も参加する決意を新たにして。

■支部会

大阪支部

第2回 琵琶湖カンファレンス in 大阪に参加して

第二近藤診療所 院長
近藤 浩之 (医10期生)



昨年に続き今年も琵琶湖カンファレンス in 大阪に参加させて頂きました。

今年は同期(10期)の瀧 秀樹先生(大阪医療センター糖尿病内科)に1型糖尿病の治療、患者指導につきわかりやすく講演頂き、門外漢の開業医にとって非常に参考になる内容で、明日からの診療に活かそうと思いましたが、やはり餅は餅屋、専門家に任せることにします。よろしく瀧先生。

続いて特別講演では病院長の柏木先生から附属病院30年の軌跡と今後の展望についてお話し頂きました。

ホームカミングデーに出席できませんでしたので、大学の現状がわからず浦島太郎状態でしたが、充実した母校の現況を知る事ができ、卒業生としての誇りと自覚を再認識致しました。

滋賀県一売り上げるローソンが勤務当時にあれば、夜中に看護師さんの食事をおねだりして怒られたり、エンシュアリキッド飲んで脂肪肝にならずにすんだのでは?と残念でなりません。

滋賀医大卒業生で大阪府下に勤務もしくは開業されている先生方は200人を超えていると聞いておりますが、診療科、地域が違えばほとんど会うことなく、情報交換する機会はありません。大阪支部会を通して知り合い、どんどん大阪での滋賀医大の輪が広がればと期待しております。



■同期会 卒後10年会 ||||| 看6期生

孫が大勢の同窓会!! 滋賀医大看護の卒業生のエネルギー



大阪医科大学看護学部 教授
(元滋賀医科大学看護学科教授)

泊 祐子

看護学科6期生の10年目同窓会に参加させていただき、大変楽しいひと時を過ごすことができました。ありがとうございました。

懐かしい顔の卒業生の間に、幼児、もう学童期?と思われる子どもさん、むずかっている乳児さんがおり、孫がいっぺんに大勢できた気分でした。卒業生も親の顔になっており頼もしく感じました。そういう人生として当たり前のことをしながら、キャリアを積み自分なりに次の道を見つけて産業保健や学校保健の場に異動したり、大学院を終え、再度実践の場、あるいは教育の場で活躍しているなどの近況をお聞きし、たのめしく感じ、若いエネルギーをもらった気がしました。

私は、現在大阪医科大学看護学部で教鞭を続けておりますが、滋賀医大の卒業生に助教で入ってもらい、助けてもらっています。この日も卒業生の一人が、ちょうど近くの病院で勤務していることに気づき、毎月開催している「家族看護研究会」に誘うと、それからずっと「子連れ」で参加されています。会場の研究室で夕ご飯を食べさせ、約90分（熱が入ると2時間程度）参加することは大変なことだと思いますが、楽しんで参加してくれています。初回の後に、「すごく刺激になった」と討論を楽しんでくれたようで、私も誘った甲斐があったなと嬉しく思いました。

いろいろな状況でも勉強する姿勢やエネルギーをもっているのは滋賀医大の看護の卒業生の特徴のように思います。

このような再会ができた同窓会にも感謝しております。これからも皆さんの活躍を楽しみにしています。



■同期会 卒後10年会 ||||| 看6期生

まるで教室…!

卒後10年同期会に参加して



中川 千尋 (看6期生)

まだ寒さが残る3月の京都、久々に会う友達とは、容姿や話す話題こそ10年という月日をそれなりに感じさせますが(笑)、ガヤガヤと喋り出したら止まらない騒がしさと、互いに向け合う笑顔はあの頃のままでした。看護職としてバリバリ頑張っている人、結婚して主婦になった人、母親として子育ても頑張っている人、新しい事に挑戦しようとしている人。立場や環境が違っても、みんな頑張っているんだと思うと、うれしくて元気をもらえました。また、お忙しい中ご出席して頂いた恩師の先生方、コメントを寄せて下さった先生方、ありがとうございました。会の中でお言葉を頂いた時は、まるで看護棟の教室で授業を聞いているかのような、うれし懐かしい気分がしました。帰り際、きっとそれぞれが何かを感じとって少し微笑んだ、そんな素敵な会だったと思います。

最後になりましたが、ご協力頂きました「湖医会」の皆様、幹事をしてくれた朋友に心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

素敵な同期会



松永 宏美 (看6期生)

これまで毎年開かれていた同期会に何回かは参加していましたが、今回は卒後10年目の同期会ということで、たくさんの同期のみんなに会えるんだろうなと、行く前から緊張と楽しみでいっぱいでした。会場に入ってみると、10年という年月は感じるものの、やはり話してみると、大学の頃と変わることなく、とても懐かしい気分になり、緊張していた気持ちもなくなり、楽しさだけがこみ上げてきました。同期会では、大学時代のことを色々と思い出しました。4年間、勉学だけでなく、大学でしか味わうことのできない貴重な体験をたくさんしました。それが今の自分につながっているのだと改めて実感しました。近況を聞いていると、同じ学び舎で過ごしていた仲間が、皆それぞれ自分の道を見つけ、つながり、活躍していることがわかりました。これからも、同期会を通じて皆の近況を知るのが楽しみです。恩師の先生方にもお会いすることができ、本当にうれしかったです。そして、幹事のお二人、このような素敵な同期会を開いてくださり、ありがとうございました。看護学科第6期生のみなさん、また会いましょう。

看護学科 交流 懇談会

初心にかえる、
いい機会。



上岡有智子 (看護9期生)

看護学科交流懇談会に参加させていただき、ありがとうございました。在校生も卒業生も参加者が少なかったのは残念でしたが、そのぶん気楽に質問できて良かったのではないのでしょうか。

私自身は卒後7年が過ぎ、今の学生さんって?とイメージできず、何を話せばよいかと心配していたのですが、当日は受付や司会も丁寧で、「さすが、1年後には看護職になる人たちだ」と感心しました。保健師って面白そう、と感じていただけたなら幸いですし、ハードな最終学年を乗り切るために多少でもお役に立てたなら嬉しいです。

また、この場をお借りして、卒業生の皆様には次回の参加をお勧めします。母校を訪ねるだけでも懐かしく、仕事を語れば「先輩としてちゃんと成長できているのか?」と初心にかえることができます。在校生からは実習の時に嬉しい指導者って?新人ってどんな風に感じる?などリアルな声が聴けます。一度も参加されていない卒業生はぜひどうぞ。意外と面白く、良いものですよ。



看護学科交流懇談会



京都市立北総合支援学校
養護教諭

尾崎 泉 (看12期生)

今回、在校生の方に話をする機会を与えて頂いたのですが、人前で話をするという経験が全くなく、何から話せば良いかと上手く考えがまとまらないまま当日を迎えてしまいました。

来る度にどんどん変化していく母校に驚きつつ懐かしみながら会場へ向かいました。

他の先輩方の話とは比べものにならない位の、まとまりのない様な分かりにくい内容になってしまい、在校生の方には非常に申し訳なかったのですが、その様な内容でも皆さんが真剣に聞いて下さり、とても助かりました。

私がゼミでお世話になった桑田先生とも直接お話することが出来、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

ただ、少し残念だったのは、今回参加された在校生の方が大変少なかったことです。私も、学生の頃は卒業後のことは全く見当もつか

なかったのですが、卒業生の方との交流で色々な情報を得たものです。情報というものは、得ているか否かでその後に大きく左右するものだと思います。また、知人以外から得る情報も違った角度から見る事が出来る良い機会だと思います。

物事を見極め自分がどういった道に進んで行きたいのか、しっかりとビジョンを持ち、タイミングを逃さず様々な機会を掴んでいき、自分の糧にし良い医療に努めていって欲しいものです。

最後に、今回交流会を開催するにあたり、ご尽力いただいた滋賀医科大学同窓会「湖医会」の皆様にお礼を申し上げるとともに、今後もさらなる発展に向けて、微力ながらお役に立ちたいと思います。

卒業生から貴重な情報を 得て欲しい。

たくさんのアドバイスをいただき、大変勉強になりました。

看護学科4年 井上 和泉

第13回看護学科交流懇談会代表を務めさせていただきました井上和泉です。私自身、今回初めて交流懇談会に参加させていただいたのですが、代表として関わらせていただいたことで、滋賀医科大学看護学科のつながりを深く感じました。

当日の交流はもちろん、ご参加の依頼をした際にも、ご出欠の有無に関わらず皆さん大変親身にお返事を下さり、ご参加いただけるとお返事のあった卒業生の方々は、交流懇談会のために勤務時間の調整をして下さった方ばかりで、無事開催できるのは本当に有り難いこと

であることを実感しました。

交流懇談会を通して、今後の進路のことだけでなく、現在の学生生活の過ごし方についてもたくさんのアドバイスをいただき、大変勉強になりました。また、先輩方がお話されるお姿を見て、自分も誇りを持てるような仕事をしていきたいと強く思いました。

最後になりましたが、開催に先立ち多大なるご支援をいただいた卒業生の方々、先生方、学生課の皆様、そして「湖医会」の皆様方に深くお礼申し上げます。



保健所長の仕事+α

栃木県北健康福祉センター 所長
大橋 俊子 (医4期生)

まず自己紹介。滋賀医大創設期の4期生。卒後東京(実家)に戻り慈恵医大整形に入局。整形外科医として研鑽12年、学位取得後、縁あって栃木県立リハ施設建設の準備・臨床(整形・リハ)計6年、公衆衛生へ転身して現在栃木県の保健所長として8年目。4月から、県6カ所の保健所長会長として来年担当する全国保健所長会総会の準備、また全国保健所長会の委員会委員長となり、年代に応じた役割を担っています。

保健所長の仕事を紹介する前に保健所で扱う仕事を整理すると、*健康関連(難病支援や生活習慣病予防、感染症予防・対策等) *精神関連(精神相談、措置入院対応等) *母子関連(不妊治療申請、発達障害等の2次フォロー等) *生活衛生関連(食中毒予防等の飲食店監視、営業許可等) *生活薬事関連(麻薬・毒物、薬局等の監視、温泉関係) *総務(免許申請交付、医療機関開設等許可、医療機関立入検査等)

保健所長は、管理者として各業務の進行管理・関係機関調整を行うとともに、医師として相談者となるとともに判断することが求められます。特に健康危機事象の場合は即断を求められます。2009年の新型インフルエンザ、2011年の東日本大震災・原発事故(勤務地が震度6強の被災

地で、環境汚染・福島県からの避難者対応)ではリーダーシップが問われました。日頃の管内市町・医療関係機関(医師会・病院等)・消防・警察・関係団体等との顔の見える関係構築が奏功したと考えますが、整形外科医として救急の修羅場をくぐってきたことも役立っている気がします。体育会系(滋賀医大硬式テニス部・陸上部)の素因も大いに役立ったかな。

最後に心身のリフレッシュ対策?として医師となって約30年近く続けているスキューバダイビングで撮影した海(魚)の写真を添えますのでお楽しみください。

(都道府県or政令・中核市により保健所業務内容は多少異なり、また自治体毎に組織が違うこともあるので、詳細は地域で確認してください。)



ギンガメアジの群れ



ブダイとサザナミヤッコ(ナイトダイブ)



ミノカサゴ(2色)

私の仕事場

(2)



すべての人々が人生を笑顔で 楽しめるような社会を目指して ～医学と音楽を融合した音楽療法活動を展開すること～

おかざき音楽教室 ピアノ講師(音楽療法士)

岡崎 和子(旧姓・宇佐美)(看7期生)

私は、愛媛県西条市出身です。大阪芸術大学芸術学部演奏学科ピアノコースを卒業後、滋賀医科大学医学部看護学科に学び、看護師と保健師の国家資格を取得後、京都大学医学部附属病院で看護師として入職しました。同病院精神科病棟(西病棟)で病棟看護師として働く傍ら、同病院精神科デイケアにて精神疾患の患者さんを対象とした音楽療法プログラムを展開し、日本音楽療法学会認定音楽療法士となりました。また、大阪府内での発達障害児を対象とした音楽療法プロジェクトにも参加したり、病院や様々な施設などでの音楽療法コンサートも多数行ってきました。平成25年3月、九年間在籍した京都大学医学部附属病院を退職し、現在は、京都府城陽市の自宅にて「おかざき音楽教室」を開きました。現在、当音楽教室では、子供さんのピアノ指導のみならず、発達に障害を持つ子供さんとお母さんのための音楽療法的アプローチや、高齢者の認知症予防・健康作りのためのピアノを中心としたレッスンなど、さまざまな笑顔あふれるレッスンを自宅で行っております。

「音楽の力」をいかにすれば社会のために役に立てるかと考え、滋賀医科大学に入学しました。入学後、滋賀医科大学混声合唱団に入ったことで、新しい出発ができたと思っております。特に当時医学科在学中で、現在医師の柴田大先生たちとの出会いには感謝しております。また、私の卒業

研究の担当教官であった任和子先生や、4年間とともにすごした仲間たちか



らも様々な刺激を受けたことに、大変感謝しております。また、京都大学医学部附属病院在職中には、精神科医や看護師のみなさまたちには多大な協力、ご理解をいただきました。特に、精神科医の岡田俊先生、須賀英道先生、林晶子先生、和田信先生、岸本卓三先生には、精神医学のみならずたくさんのことを教えていただきました。大変感謝しております。私は、今までいろいろと悩んで考えて前に進まなかったこともありましたが、たくさんの方々に支えていただき、それがあったからこそ現在の私があると思っております。

健康であつても、病気であつても、障害があつても、全ての人々が人生を笑顔で過ごせるような社会をつくるための活動を音楽の方向からこれからも続けていきたいと思えます。私の、医学と音楽を融合した活動にご興味のある方がいらっしゃいましたら、お気軽にご連絡いただけると嬉しいです。声をかけていただければどんなところにも出向いて音楽活動を展開していきたいと思えます。どうぞ今後ともよろしくお願い致します。



横浜市神奈川区こども家庭支援課
保健師

一色 喜保(看7期生)

仕事と育児の両立に奮闘中

私は、本年4月より、横浜市神奈川区こども家庭支援課で保健師をしています。湖医会事務局へ住所と勤務先の変更の連絡をしたところ、「横浜市といえば、待機児童ゼロを実現したことがニュースになっており、現在の勤務の様子を寄稿していただませんか」とご連絡をいただきました。生まれ育った滋賀を離れて、3年が経ち、滋賀を懐かしう思う今日この頃です。近況をご報告したいと思います。

2004年に看護学科を卒業し、9年が経ちました。卒業後は、滋賀県内の市町村で保健師として、保健活動をしていました。多くの出会いがあり、充実した毎日でした。退職して、千葉大学大学院看護学研究科博士前期課程へ進学しました。

大学院では、地域看護学教育研究分野に所属し、入学直後からゼミのプレゼンテーションの準備と英語漬けの日々が続き、「場違いな所に来てしまった」と思ったこともありましたが、しかし、それまでは考えたことがなかったような視点で、看護の専門性を考え、刺激的な学生生活でした。ティーチングアシスタントや研究補助などを通して、保健師の専門性とは何かを考え、多くの人と議論を続けました。また、学士課程の学生に対する教育について学ぶ機会も多く、教育的な配慮をして関わることの重要性を学びました。修士論文は「健康教室参加を契機に地域活動を始めた住民の経験と意識・行動の変化」というテーマで取り組みました。なかなか研究テーマが決まらず苦しい時期もありましたが、さまざまな経験を持つ

先輩や同級生たちとの時間は貴重な宝物です。在学中に妊娠・出産を経験し、2013年3月に大学院を修了しました。

そして現在は、人口370万人の横浜市の職員をしています。横浜市の保健師は400名以上おり、多くの保健師は区の福祉保健センターに配属されていますが、保健師の中でも約70名は管理職をしています。横浜市は、職員の人材育成の仕組みが充実しています。採用前から職場訪問や職種別懇談会がありました。入庁後は、約2週間のクラス別研修があり、職種や年齢を超えて、高卒や大卒の人たちと講義を聴いたり、グループワークをしたりしました。行政の仕組みを知るだけでなく、市民から信頼される職員となるための知識と姿勢を学びました。その後、4月中旬に配属先が決まり、その後も福祉保健センターや区役所の仕組みを学ぶ研修、保健師基礎研修、母子保健・虐待対応研修が続きました。横浜市の保健師は業務分担制と地区分担制をとっています。私は臨海部のマンションや私鉄沿線の住宅密集地、昔ながらの商店街がある地域を受け持っています。毎日の業務は乳幼児健康診査や赤ちゃん学級、おやこ教室などの保健事業のやりつけが多いです。相談の電話や面接を担当する日もあり、予定のない日は家庭訪問に出かけています。まだまだ慣れないことばかりですが、今までの経験を活かして、より多くの市民の方と共に、地域づくりをしていきたいと思っています。

こどもの体調不良が続き、仕事と育児の両立にも悩みます。4月1日の入庁式の朝からこどもが熱を出し、焦ったことを笑って話せる日が来ること信じて、踏ん張って仕事を続けたいと思っています。横浜へお越しになることがあれば、お立ち寄りください。

研修医 だより

沖縄県での 小児科後期研修記録

沖縄県立南部医療センターこども医療センター
小児科後期研修医

倉橋 幸也 (医29期生)



2009年に卒業し、兵庫県立西宮病院で初期研修2年と小児科後期研修1年を行い、医師4年目から沖縄県に参りました。現在医師5年目になります。簡単に沖縄での生活を紹介させていただきます。

関西から離れて勉強したい、こども病院で働きたい、でも、一般小児科診療も勉強したいというわがまを満たすことのできる施設を探した結果、縁もゆかりもない沖縄県でお世話になることになりました。

沖縄県の医療で本土と大きく異なる点は①離島診療と②米軍基地・米軍海軍病院の存在でしょうか。

沖縄県は離島診療を担う地域の一つです。沖縄県立病院で後期研修をすると、どの診療科であっても最低1年間は地域医療に従事することが求められます。主な赴任先は、宮古島・石垣島・沖縄本島北部(名護)です。義務と書くと渋々行かされるように思われがちですが、実はこの地域医療義務が魅力で後期研修医が集まってきます。希望で2年以上赴任される先生も多いです。沖縄らしさといえば、まだハブにかまれた



人を診たことはありませんが、今後経験するのかと思うと怖いです。勉強しないといけないことが山積みです。

沖縄県の歴史を語る上で米国は欠かすことができません。在沖米国人の受診は日常的にあります。英会話力の必要性を痛感します。教育面では県立中部病院を中心に米国式医学が取り入れられており、こども医療センターにも外国人講師が年に数回講演に来てくださいます。2013年は米國小児救急医学のパイオニア・セントルイス小児病院のJaffe先生の講演がありました。米国海軍病院との定期カンファも開催されており、off the job trainingも充実しています。

週末は海岸沿いのカフェに行ったり、ビーチパーティーを開催したり、離島に行ったりと隙間をぬって遊んでいます。後期研修医は1週間ですが、初期研修医は2週間長期休暇が取れるので実は魅力的ですよ。ご参考までに。

滋賀を離れて5年目になりますが、湖医会のご活動や、同級生・先輩・後輩からくる連絡で滋賀医大の温かさは常に感じております。ありがとうございます。将来的には母校に何らかの形で還元できればと考えております。これからも滋賀医大卒業生としてよろしく願い申し上げます。



学友追懷



きょうかわ整形外科クリニック 院長
京川 進 (医13期生)

藤原 好さん ありがとう



な一様にきつと立派な
医者になっていただろ
うにと口惜しく語って
いました。スピーチのあ
と藤原さんの友人で
あった同期の林寛子
さんのVocalと瀬戸野
さんというカッコいいお
兄さんの7弦ギターに

去る平成25年4月7日、京都市内御池通にあるリストランテ ストラダにて ♪メモリアルミニコンサート♪ 藤原 好を偲んでと銘打った今は亡き、同期の藤原好(ふじわらよしみ)さんの他界後20年の追悼会がご遺族の主催で行われました。

ご存じのない方も多いかと思いますが藤原好さんは国試を控えた卒業直前にヘルペス性脳炎を患い、脳死状態を経た後亡くなられた同期の女子学生です。関西学院大学で心理学を学んだ後大学院進学を変更して滋賀医大に入学され、心と体の病の隙間を埋める医者になりたいと精神科医になるべく真摯に努力されていました。自身チェロの奏者でもあり、音楽や絵画等芸術にも造詣が深く読書や映画鑑賞が趣味で、みんなに尊敬されていたと思います。僕も一度誘われて一緒に映画を見に行った覚えがあります。

会は、寒かったこの冬もようやく終わったように思えるうららかな京都の春の陽射しの午後、始まりました。参加者は関学や医大の同級生とその家族、ご遺族の方々等40名弱でした。うち滋賀医大の同期生は15名と予想していたよりも少なかったのがちょっと淋しかったのですが、医者という職業上遠隔地の方も多し、仕事やプライベートでも忙しいのでしょう、やむを得ません。それでもみんなに久し振りにあうことができてミニ同窓会のように楽しかったです。

お母様の挨拶のあと黙祷、献杯があり、美味しいイタリアンのビュッフェで飲食をしながら関学、滋賀医大の友人のスピーチがあり近況報告や、彼女との思い出話などで当時のことなど懐かしく思い出されました。みん

なによるコンサートがはじまりました。1時間弱のコンサートで7曲目ありました。素敵な歌とギターの音色でした。最後はMichel Jackson の You are not alone という曲をみんなで歌いました。

You are not alone. I am here with you .

Though we are far away. You are always in my heart.

こうして2時間ほどの♪メモリアルミニコンサート♪はそろそろ終わりを向かえたのでした。お母様も春の京都で、和やかな楽しいひとときをお過ごし下さいと案内状にあったように藤原好さんの他界後、素敵な20年目の追悼会となりました。

しかし20年というのはやはり長い年月です。みんなの風貌を劇的に変えるだけではなく、過去の出来事や思いを忘却のあなたに押しやってしまうには十分な時間です。

当時、『飛翔』という藤原さんの追悼文集に僕が寄せた文章を目にする機会があったので一部を抜粋します。

『藤原さんが亡くなって約1ヶ月が過ぎました。今僕は来たるべき国家試験に向けて頑張って勉強している所です。本当なら当たり前のように、藤原さんも共に机を並べて医師になるべく勉強していたはずなのに。本当に急の事だったので、彼女が死んでしまったんだという事はどうしても実感が湧きません。

藤原さんとのことで、僕が特に印象に残っているのは、採点のバイトで大阪の予備校に行った帰りに時々食事をしたり、お茶を飲んで帰ったりしたのですが、ある時二人で32番街の喫茶店に入って話をしていた、それぞれの結婚の事、将来の事などについて話をしている



と突然彼女が泣き出してしまった事がありました。高層ビルの最上階から見た夜の大阪の街のイルミネーション、星影、藤原さんの涙、そしてしまった事をしてしまったという僕のあせりの気持ち……。妙になつかしく思い出されます。しっかりしているようでもやはり女の子なんだと思って反省しました。

今でもよく覚えています。藤原さんは最後の会話で「ありがとう。」という言葉を書いてくれました。もう藤原さんには何を言ってあげることも、してあげることもできないんだなあという思いになりますが、せめて最後を「ありがとう。」という言葉で終わることができて良かったなあと思っています。』



今、医者になって20年、開業して10年が経ちました。今では当たり前のように開業医として日々のルーティンワークをこなす忙しいだの、仕事だけが人生と違うだの思ったりして決して現状に満足することはいつまで経ってもないように思われますが、あんなに医者になろうと切望して必死に頑張った日々があったことや、藤原さんのように医者になるという夢の成就する直前で無念の死を迎え、本人はもちろん周囲の人たちも悲嘆にくれたことを思うと、月並みな言葉ではありますが初心忘れるべからずと思い、今一度襟を正さなくてはという気持ちになりました。

「湖医会」では、『志半ばで逝ってしまった娘の夢を繋いでほしい』と好さんのご両親のご厚意により、2005年から「藤原よしみ奨学金」として運用し、自主的に活動する学生に資金的なサポートをしています。本年は3名に貸与しました。

訃報

謹んで哀悼の意を表します。

平成24年11月10日	金子	麻子	(医29期生)
平成25年 3月22日	村下	淳	(医11期生)
平成25年 4月	田中	由布	(医33期生)
平成25年 8月 6日	植西	敏浩	(医10期生)
平成25年 8月28日	高橋	浩子	(医18期生)
平成24年 9月29日	森	渥視	(特別会員：元外科学第二講座)
平成25年 4月12日	今村	昭	(特別会員：元物理学)

2013年度「湖医会」総会のご案内

日時／平成25年10月26日(土) 15:00～

場所／滋賀医科大学看護学科棟第4講義室

議題

- | | |
|---------------|-------------|
| 1. 2012年度事業報告 | 4. 2013年度予算 |
| 2. 2012年度決算 | 5. 規程の改正 |
| 3. 2013年度事業計画 | 6. その他 |

※多数のご出席をお待ちしております。ご欠席の場合は、委任状の提出にご協力ください。

琵琶湖プライマリケア・リフレッシュコース開催のご案内

(プライマリケア医の生涯学習促進を目的とした実用的なセミナーです。)

テーマ……**プライマリケアのための超音波検査 頸部から下肢まで**

講師……**尾本 きよか先生**(自治医科大学附属さいたま医療センター 総合医学第1講座准教授)

日時……平成25年12月8日(日) 午前9時55分～午後4時30分まで(受付開始／午前9時30分)

場所……**ピアザ淡海会議室** 大津市におの浜1丁目1番20号 Tel: 077-527-3315

参加費……医師…10,000円／研修医(初期)…1,000円(昼食代を含みます。当日現金でお支払いください。)

申込み先…滋賀医科大学医療福祉教育研究センター(林)

E-mail: hqifkkce@belle.shiga-med.ac.jp

Tel: 077-548-2759 Fax: 077-548-2401

申込み締め切り…平成25年11月25日(月)

※講師への事前の質問を歓迎します。上記申込先へご連絡ください。

※本企画は日本医師会生涯教育制度指定講習会(5単位)に認定されています。

(CC 2・8・18・24・27・43・45・74・75・80)

主催／滋賀医科大学琵琶湖プライマリケア・リフレッシュコース事務局

詳細及び応募方法については、滋賀医科大学ホームページをご覧ください。

(URL: <http://www.shiga-med.ac.jp/oshirase/121202.html>)

お知らせ

「湖医会」年会費の自動引き落とし

口座振替をご利用の方は10月12日、
一般VISAカードの方は10月15日となります。

なお、便利な口座引き落としのご利用を
ご希望の方は事務局までご連絡ください!!



お名前・住所・開業・勤務先・メールアドレス等
変更の場合は、メールまたはファックスで事務局
まですぐにご連絡ください。

表紙の写真：病院再開発で増築されたD病棟（2007年）